

ロシア材の今後を製材から読み取る

10月7日に岐阜県の本木市場に今シーズン最初のロシア材原木が出品されていました。

2022年1月1日から全面輸出禁止になりそうなロシア材広葉樹原木ですが、実際のところこの法律が施行されるまでは真実は解りません。

広葉樹原木を扱う業者は、100%真実なのか、そうでないのか、半信半疑の思いで有ります。



日本の10月の市に合わせるためにはロシア国を8月に輸出されていなければ間に合いません。8月と言う時期は広葉樹原木を伐採している時期では有りません。仮に7月に伐採していれば、木口に変色をもよおしています。写真で解るように少し木口は古いですが変色してはいません。

今回の市には45本のロシア産タモ原木『製材したから解るのですが、今年の2月から3月に伐採した原木を倉庫で保管していたと思われます。』が出品されていましたが、弊社は5本落札しました。落札した5品を10月14日から18日の期間に製材しました。

市に参加して下見をしている時は感じませんでした。原木自身が凄く乾いている感触を製材時感じました。凄く水分が抜けているのを強く感じたのは、製材道中『ピリピリと割れるような感じ』に感じたからです。フレッシュな原木を製材する時は十二分に水分を含んでいる為に原木を二つに割った時点『胴割り』ではまず材は動きませんが、今回製材した原木はごくわずかですが動いたのです。

上記の事を考えると間違いなく輸出禁止に近い命令が出ると思いました。輸出業者には原木が輸出できなくなることのダメージは我々より大きいかもしれません。情報はある程度把握しているから最後の最後まで日本の円を手に入れようと努力します。それしか輸出業者が出来る手段はないと思います。

11月の市も同等のロシア産広葉樹原木が出品されると聞いています。11月に間に合わす為には9月に伐採を終える必要が有りますが、同じようなロットなのか、それとも今シーズン伐採した物かは見たら解ると思いましたが、ロシア産広葉樹原木の動向で日本国内の広葉樹の使い方に大きく影響が出るものだと考えています。

良質の広葉樹資源の価格は将来に向けて上がり続けるのか否かはロシア産次第です。

東北と北海道の広葉樹資源の量は何を言っているのか。

10月14日の岩手県産の広葉樹原木の市と10月22日の北海道の広葉樹原木の市共に過去最低の出品量だと思います。↓[下記写真参考](#)



左が岩手県です。右が北海道です。土場がガラガラです。この状況を見ると需給バランスが狂っている事は解ります。コロナの為に起こった世界的なパンデミックで一次産品全てに供給不安を齎しています。木材も影響を受けています。

外国産の針葉樹に頼っている現在の住まい作りを日本産の植林した針葉樹に変更しようとする流れは、日本の林業にはプラスですが、広葉樹資源に関しては簡単では有りません。針葉樹は合板および一般材用とパルプ用と工業化された大規模な工場で生産されていますが、広葉樹は針葉樹製材工場と比較して小規模です。広葉樹製材工場でも最も大きい製材工場の1日の製材数量はおよそ50~60立方くらいです。最新の針葉樹製材工場は1日500立方くらいだと思います。この違いは、需要が針葉樹の方が圧倒的に多い証拠なのです。家具等の用途に広葉樹の方が針葉樹より価値が有りますが、その分供給量もはるかに少ないです。上記の10分の1が正しい数値なのかは、学者でない小生には解りませんが、9月に北海道の倶知安の造材業者の生産現場を見てきた肌感覚で言えば間違っていない数字だと思います。

本州の森林管理局も針葉樹に混じって生育している侵入木の広葉樹資源を使おうとしていますが、広葉樹の場合針葉樹より多くの年数が必要になると思います。

もともと広葉樹は針葉樹より曲がりくねって成長していく性格が有ります。その性格は言わば欠点ですが、その欠点を補う為には広葉樹の新しい製品作りが必要ですが、針葉樹業者の方がまとまりは良いと思います。多方広葉樹の業者の方が零細な為まとまりが悪いと思います。国も戦後植林した針葉樹の方を優先した政策を推進していますが、当然のことだと思います。

今月の出張は広葉樹を扱う業者は小異を捨てて大同につくべきだと言っているように感じました。

服部商店はどう考える。

服部商店の持ち味は在庫能力です。しかし在庫能力以外の事で世の中に貢献する事を考えなくてはいけない状況ではないかと思えます。世界中で木材資源の争奪戦が行われています。日本は有り余った針葉樹があるから全体から見ると余裕が有る様に思えますが、先々単純にはいかないと思っています。

針葉樹の業界は規模の大規模化（工場を大きくして無人化する）、手段の多様化（大断面集成材から CLT 工法等の建て方の多様化）を進めています。先々は現場と工場がインターネットで結びついて中間業者がなくなる可能性が大きいと思えます。

広葉樹は針葉樹と違い規模と手段を簡単に変更は難しいと考えています。アメリカ材を服部商店は直輸入しています。大規模な広葉樹製材工場もアメリカ材を直接買い付けています。当然我々より格安で購入していますが、針葉樹製材工場より広葉樹製材工場の方がスケールメリットは小さいように思えます。

服部商店は零細な広葉樹製材工場です。規模のハンデを製材する商品のレパートリーで対抗してきたのですが、それは少ないながらも有る少量の優良材を入手する服部流の 90 年以上継続して育んできた木を見る目、木を大事にする生産方法、資金力等でカバーしてきましたが、もう限界に来ていると思わせるのが 9 月・10 月・11 月の 3 か月間出張の結論です。

2022 年度に販売する在庫は有ります。（2021 年度アメリカ出張が出来ない事を他の手段でカバーしました。）現在仕入れしているのは実は 2023 年に販売する材です。しかし来年ロシア産広葉樹原木の輸出制限処置が実行されれば、材木商を継続できるか、否かの死活問題になると考えています。

上記に事を整理して服部商店の将来像を考えました。

- 1, 女性が企画・立案・設計・販売・管理・回収できる事業を考える。
- 2, 女性のハンディキャップ【重たい・汚い・きつい、木材業界の悪いイメージ】を 1 の事で解決する手段を考える事。
- 3, 大きな需要を追うのは大企業です。大きな需要を追うのではなく限りなく隙間を考える。
- 4, 同業はもとより他業者を含めて水準以上の給料を払えない中小零細業者は淘汰される。
- 5, 中小企業のオーナー会社の考え方【会社は社長の物】を捨てて【会社は従業員がいてくれてこそ社長が辣腕を振るえる】に変更する事。

↓

*新規事業を起こす事しか選択肢は有りません。

*真の同一労働同一賃金を目指すこと。

以上の事を実現できるよう頑張ります。服部新聞の購読者だけにはお知らせします。

政権与党の景気対策より皆様の懐を温めるセールです。

服部商店は年間を通して皆様の為にイベントを継続します。

2021年11月1日～11月30日

お得意先様向けのキャンペーン

毎週先着にて、30,000円以上（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）御
買い上げの5名様に、アマゾンギフト券5,000円を差し上げます。

新規のお客様限定のキャンペーンを実施

50,000円（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）以上お買い上げの全員
に、アマゾンギフト券10,000円を差し上げます。

